

寸言

株式会社富士インダストリーズ
代表取締役社長

山田 純嗣



神戸国際空港の夢

今から200年前の英国で、産業革命の象徴たる蒸気機関を利用する鉄道が出現しました。

当然、近代化を進める我が国政府も鉄道の導入を急ぎましたが、一部の地方都市では、「蒸気汽車が走ると火事になる云々」と言っ、近代技術を拒んだという話があります。その影響として鉄道網からはじかれた地方都市は、その後の経済発展から取り残されることとなりました。文明の発展と都市の発展は、両輪となっていて、住民の高い先見性も又要請されます。

さて、我が愛する神戸。もしも神戸市民が先見性を持って別の選択をしていたら、神戸は世界でも有数の国際都市として活況を呈していたかもしれません。

1969年、運輸省が関西空港構想を立ち上げた時、ポートアイランド沖の神戸空港は国際空港として最有力候補の一つでした。1973年、神戸空港案に賛成する市長を選んていれば、現在の関西3空港ではなく伊丹の大阪空港と24時間離発着の神戸国際空港が関西経済圏で大活躍をしていたことでしょう。

神戸は緑豊かな六甲山と大阪湾に囲まれ、太閤で有名な有馬温泉まで20分、全国でトップ20に入るいくつかのゴルフ場、ユニバーサルスタジオジャパンまで30分、ボーイング社の本拠地シアトルとは姉妹都市、歴史的には維新前夜の勝海舟、坂本龍馬の海軍操練所、往時日本では有数の港湾施設、又、欧米や中国、台湾、インドからの移民による外国貿易の拠点として総合商社の源流とも言われる鈴木商店などの邦人貿易企業や外資系の企業などが現在の旧居留地を中心に活躍していました。

もしも長期的視野に立った都市計画を進めていれば地形的にはサンフランシスコのベイブリッジに匹敵する明石海峡大橋を望む風光明媚

な町として発展していたはずで。

現在の関西国際空港は京阪神、四国、岡山から遠くアクセスには時間とコスト面で問題を抱えています。一方、神戸空港は新幹線 新神戸駅から車で15分、京都、大阪からも交通至便で東の羽田空港に匹敵しています。当時の神戸市民の主な反対理由が航空機エンジンの騒音公害でしたが、その後騒音は約30%以上も軽減され現在の神戸空港の離発着にはエンジン音は全く市民生活には影響はありません。

むしろ都心に近い空港の多大な利点から、もしあの時に国際空港として開港しておれば、中国、韓国、東南アジアの玄関口として神戸経済だけではなく西日本にとつともない利益貢献をしていたでしょう。

閑話休題、移民による、中華、韓国、インド、ロシア、ドイツなどの食文化に恵まれつつ、標高750メートルの六甲山の頂きに日本最古の名門コース、神戸ゴルフ倶楽部があります。明治29年、1896年、イギリスの貿易商が六甲山にゴルフ場を造ろうと提案し、ツルハシとモッコの手作りで1903年に18ホールが完成、当時は町から駕籠に乗ってゴルファーがやって来たとのまことしやかな話があります。

某週刊誌でプロゴルファーの青木 功氏は、コースに着くと、山荘のような佇まいのクラブハウス、100年以上の歴史を感じる厳かな空気、実に面白いレイアウト、クラブは10本以内、18ホールでパー61、距離は4,049ヤードと短いが個性豊かな手作りコースとしてとても愉快であったとコメントを載せていました。

ゴルフ場だけではなく、国際都市神戸の良さを是非体感していただければ幸いです。